中北海道現代俳句協会

会報

90号

令和２年
12月８日発行

言葉の地層

松王　かをり

マスク毛羽立つ雨冷の診療医　　秋尾　敏
（『俳句四季』（二〇二〇・九月号）

立ち止まりマスクずらせば風は秋　　秋岡　実
（『朝日新聞』（二〇二〇・九・二〇）

最近目にした句の中で「マスク」を詠んでいる句を二句挙げた。「マスク」は「風邪の予防や防寒のために鼻や口を覆うもの」という本意をもつ冬の季語である。けれど、コロナ禍を経験した私たちは、もう誰も「マスク」が冬の季語だとは思わない。この二句の季語も、「雨冷（あまびえ）」（疫病退散のご利益があると巷で噂の「アマビエ」を遊び心で掛けたのか、筆者の考え過ぎか）、「風は秋」という秋の季語である。

季語とは、綿々と続く長い文学の歴史の中で、ゆっくり熟成・堆積した言葉、したがって季語には「地層」がある。もちろん、言葉はそれぞれに地層を持っているが、季語がその最たるものであろう。そしてそれを、「本意」とも言っているのだろう。その「マスク」の地層が、二〇二〇年を以て崩壊、否、完全に断裂してしまったのである。

コロナ禍ばかりではない。地球温暖化によって、日本の気候は亜熱帯化し、歳時記と大きくずれてしまった季語もある。「立秋」は、本州ではもはや酷暑の最中。こちらは地層の横滑りであろうか。

さて、ポストコロナ時代に、俳句をとりまく状況はどうなるのだろう。以前のように句会が出来るようになったとしても、ネット句会の占める割合がきっと増えるだろう。そして、結社の存在は、今以上に縮小していくのではないだろうか。

けれど、時代がどれほど変わっても、言葉の地層を探求するという俳人の営みに変わりはない。

中北海道現代俳句協会
「令和二年度俳句研究交流句会」を終えて

組織活動部長　原　田　昌　克

今年度は初の紙上句会形式にもかかわらず、投句者七九名一五八句という例年にも増して多くの方の参加があり、九月三〇日に作品集の発送をもって無事終了することが出来ました。

全国的に大中の俳句大会、果ては小規模な俳句会まで軒並みコロナ禍に呑み込まれ中止や延期となる中、紙上句会形式ではありますが、俳句研究交流句会を開催できたことはコロナ後の新しい生活に向けても意義のあることと思います。ここに参加者並びに当番結社雪華俳句会そして関係者の皆様に心から感謝いたします。

紙上句会形式でなおかつインターネットも活用してという初の試み。途中何度かのアクシデントもあり、九月初旬の結果発表予定も大幅に遅れてしまいました。参加者の皆様にはご迷惑もおかけしましたが、その分ご満足いただける作品集に仕上がったのではとスタッフ一同手応えを感じていますが、いかがでしたでしょうか。

令和二年度　俳句研究交流句会作品

• は特選の数

順位

26
• 金婚の笑みこぼし合ひいちご摘む　菅原　湖舟
労りの言葉がぎゆつと夏の星　和佐　尚子
蓮池や少年ランナー走りすぐ　霜田千代麿
風吹きてうなじに一つ夏の嘘　宮原　青佳

8
次の世を図書館裏に金魚売る　長野　君代
告知の日枝豆はづす母の指　藤原ハルミ
鳴くものの声の器に白牡丹　辻脇　系一
• 開拓の日記閉じたる冬始め　島崎　寛永
• テレビ面会十五分の炎昼　藤森そにあ

15
噴水の伸びて縮んで倦怠期　関根　礼子
海浜の西瓜割られて砂に帰す　齋藤　厚子
舟食虫遠流の島に永住す　鈴木きみえ
• 姦淫が石榴の中で熟れてゆく　安田　中彦
引き籠る夜のモナリザ髪洗ふ　金子真理子

5
• **人間の半分は影八月来**　原田　昌克
• 水金地火木土天冥海蟻の列　亀松　澄江

夏空に祖父の応える「もういいよ」　垣内　紀子
百歳は花林糖が好き夏の蝶　遠藤　静江
夏座敷帯には夢と素描きして　齋藤　嫩子
盆波や　夢見し海の　道はるか　伊奈たかよし
ストロングミント歯磨き朝曇　阿部　満子

7
万緑が呑み込む字も大字も　青山　酔鳴

13
起き抜けのパジャマ海月のかたちして　石川美智子

4
和箪笥のかくし抽斗原爆忌　平尾　知子

19
青虫のあおにスポンサーが付いて　鹿岡真知子
銀座の若き三代目鱧の椀　廣田　和久
コンビニは学習塾へ街初秋　上田すみ子
公園にほんとうの夏が来ていない　石井　美髯
過疎の街「止まれ」を抜けて秋の海　齋藤　雅美
夏の海兜太の首と椰子の実と　小田島清勝
川草に溶けて青鷺時をよむ　鈴木たかし
涼しかりしふれ売りの声昭和古る　小路　裕子
闇を抱き火を抱き苧殻こぼれけり　五十嵐秀彦

26
星涼し息吹き返す硝子ペン　瀬戸優理子
叢に黄の交じりきて鰯雲　中田　琢志

16
ビー玉の転がる廊下八月尽　遠藤由紀子

18
歩くたび風が生まれて秋桜　岡本　順子

あやっと時間を抱き若葉風　柏田　末子
ジャングルジムに綺麗な歌のある夕立　音無　早矢

17
夏の雲時計台へとほどけゆく　中山ヒロ子
箱釣りの競争一匹おみやげに　林　冬美

11
乳房という邪魔なもの藍浴衣　渡辺のり子
陽が昇るあしたくる日のハナミズキ　木南　琴
流離とや尾根の彼方へ処暑の雲　桂井　俊子

11
あたりまへのこんなにとほくところてん　松王かをり
潮騒は母の温もり大夕焼　村上　海斗
毎日の句点読点今朝の秋　中川　洋子

2
家系図に悪党のゐて夏薊　中村みずほ
滝に来て滝に打たるる心持なり　黒田さち子
よる型の海月ひときわ輝けり　今堀　冷子

13
一日の中に結界髪洗ふ　近藤由香子
マスクは冬と歳時記にあり炎天下　佐藤　和則
秋薔薇や錆びるにまかす室外機　田口くらら
露天風呂灯る浮き玉鮭定置　石本　雪鬼

20
夏萩やゆふぐれの窓閉めにゆく　倉部　仁子
尻子玉ぬきてキャンプの火へ焚べぬ　増田　植歌
万緑に知床ゴジラ動き出す　土岐　陽子
コロナの世眠り足りたる夏蚕透く　横山いさを

26 寝つきさうな首に手をそへ緑の夜　中田眞知子
24 うろこ雲医師と看者のながき黙（もだ）　下山　春陽
21 大勢でひとりのホーム遠郭公　檜垣　桂子
9 望郷のたかさに掴む法師蝉　大河原倫子
サングラス知恵ありそうな人ばかり　ふじもりよしと
紫陽花や仔犬販売してゐます　荒川　弘子
とりあえず男と女祭笛　江草　一美
夏逝けり子の上掛けを直す夜　鈴木　夕希
21 音でなく弦こそ私夏の月　多田　琴美
太陽に爪を立てたり黒日傘　西井　健治
1 八月や薬罐に満たす明日の水　永野　照子
9 あなたとのあやふやな距離ところてん　藤谷　和子
6 うかうかと妻であります夜の桃　高畠　葉子
石の影正しくなって月涼し　伊藤　津良
マダムやすこと名付けてみたり秋のバラ　平川　靖子
3 半身の馬もう半身は夕蛍　信藤　詔子
25 流星や言葉になりしとき消ゆる　橋本　善夫
仕舞湯の妻の鼻唄日脚伸ぶ　臼井　千百
夏野ゆくリュックに源氏物語　本　ゆみ
23 星流る新しき傷またひとつ　古川かず江
芥子咲いてコロナも咲いてわれ萎（しぼ）む　有田　裕子

第30回 中北海道現代俳句大会のご案内

1	日時・場所・会費	令和３年４月４日（日）　午後１時から 札幌サンプラザ　札幌市北区北24条西５丁目 TEL 011－758－3111 大会費：1,000円
2	講　　演	月岡　道晴 先生（歌人・國學院大學北海道短期大学部教授）
3	演　　題	「未　定」
4	講　　評	特別選者他
5	応募規定	２句１組　1,000円　但し高校生以下は無料（４句まで） 新作未発表作品に限る。所定用紙又は200字詰原稿用紙使用。 出句料は定額小為替または現金書留。
6	送り先	〒063-0811　札幌市西区琴似１条１丁目２-38　琴似コート614号室 金子真理子　TEL (011)644-5193
7	締　　切	１月12日（火）　必着
8	賞　　品	大会賞ほか
◆	懇親会	大会に引き続き同会場で午後４時半から行います。 会費　6,000円　当日受付にて申し受けます。 ※　懇親会出席を取消されるときは、当日３日前までに連絡をお願いします。 ※　連絡なく欠席される場合は、会費を頂戴します。

※尚、当日は第21回中北海道現代俳句協会賞の顕彰も併せて行われます。

礎

川端麟太

略歴　大8年～昭62年。札幌生
暁雲、石楠、青炎、アカシヤ、緋衣等を経て、昭23年細谷源二を中心とする「北方俳句人」（翌年「氷原帯」に改称）創刊に参加。昭50年第二代主宰に就任。北海道新聞俳壇選者。句集に『庶民の帽』『さっぽろ砂漠』『群盗伝』。札幌市と鷹栖町に句碑。

のぞみありて庶民の帽の青きひさし
壮快に鶴とぶ壁画さっぽろ砂漠
星の湿りの切符が溢れる終着駅
鷹を撲って青年も木も水びたし
後ろ手に牛曳き死後は何曳かん

西村　山憧　抄出

〔青のフロント〕佳句抜粋

突破口さがしあぐねて南瓜割る　藤原ハルミ
泣かないと決めて銀河は広がりぬ　音無　早矢
秋果買ふ旅の途中の何でも屋　田口くらら
移り香の罠にまんまと秋澄めり　宮原　青佳
秋の風街にとびこむスニーカー　朝月　春陽

幹事会報告

幹事報告会　R2.9.17(水)於かでる2.7 1020号室
議題

1　令和3年度　第30回　中北海道現代俳句大会(事業部)
・日時 令和3年4月4日(日)午後1時
会場　ホテルサンプラザ
・講演 月岡道晴氏(歌人・國學院北海道短期大学教授)
・大会選者 4名退任, 3名加入

2　俳句研究交流句会結果報告(組織活動部)
・投句者79名　158句　紙上, ネット上にて選。
9月29日結果印刷発送

3　令和3年度総会及び新年会(事務局)
・日時 令和3年2月6日(土)
会場 ホテルサンプラザ 会費 5,000円
(すみれホテル休業の為変更)

4　第21回中北海道現代俳句賞(組織活動部)
・12月15日締切
・選考委員の方々への謝礼を検討

5　会報90号について(広報部)
・12月上旬発行予定
・一人一句集の鑑賞の書き手について
・印刷所変更について

6　その他(会長)
・顧問、三役・選者の会について
コロナ禍であり、会の運営状況を資料作成して郵送

出席者 ── 五十嵐・石本・亀松・江草・林・鹿岡・遠藤・青山・瀬戸・中田・近藤・金子・ふじもり　以上13名

幹事報告会　R2.11.19(木)午後6時かでる2.7
幹事会中止　メールにて各幹事に配信
議題

1　俳句研究交流句会結果報告(組織活動部)
・収支報告、紙上並びに夏雲システム使用の結果等
・次年度日程未定

2　令和3年度総会・新年交流会について(事務局)
・日時 令和3年2月6日(土)午後1～4時
会場 ホテルポールスター札幌
・会費・案内状・総会資料の作成等
開催の是非は新型コロナ感染の状況をみて。

3　第30回中北海道現代俳句大会(事業部)
・日時 令和3年4月4日(日)午後1時から
会場 ホテルサンプラザ
大会参加費 1,000円　懇親会会費 6,000円
講演 月岡道晴氏

4　第21回中北海道現代俳句賞募集について(組織活動部)
・12月15日締切

5　三役・顧問・選者の会(事務局)
・本年度はコロナ禍もあり、活動の現状を郵送にて報告

6　会報No.90(広報部)
・12月8日発行予定
・部長交代

資料配信先 ── 五十嵐・石本・亀松・江草・原田・林・鹿岡・遠藤・高畠・青山・瀬戸・金子・近藤・ふじもり　以上14名

集鑑賞

1頁～2頁　長野　君代

惑星も私も歪（いびつ）ラムネ飲む　遠藤由紀子

地球が太陽系の一惑星で楕円形であることはよく知られている。三六五日強で太陽を一周し、二四時間で一自転している。こんな大きな天体と自分を同列に置いているところが、この句の面白さであろう。惑星も私も歪である方が親わしい。ラムネの力か、すっとさせられる。

救荒の歴史数多や栗稔る　石本　雪鬼

豊穣の秋が来た。たわわに実った栗を眺めたり味わったりしながらの感懐であろう。爽やかな情感が伝わってくる。歴史をふりかえれば、幾度となく飢饉に喘ぐ農民の姿や、それを救済することに力を注いだ人々の姿が甦る。

体言で止めよコスモス揺れており　江草　一美

コスモスと言われ、ば誰しもが思う。風に揺れる、はかなく優美、しかし思うよりも強靭、などなどと。私たちの心に棲みついている予定調和という美しい魔物。作者はそれを戒めて「体言で止めよ」と詠うのだろうか。コスモスに話しかけているようでもある。それでも尚、コスモスは揺れたがるのであろう。

3頁～4頁　鈴木きみえ

自由とは不自由でありホーホケッキョ　小野田あさみ

人間とは気ままなもので、自由になりたい願望は、いざそうなるとふと不安になる。自由とはやはり不自由なものと自覚するまでに時間がかかる。座五のいろいろな名で呼ばれる鶯のさえずりの声が特によい。春を告げるその声でしめた手腕、仲々なものであり、俳味ただよう座五がよい。

平成の地図折り畳む湯ざめかな　倉部　仁子

「平成」が終わり今は「令和」。時は移り変わるが地図も変わっていくだろうし、もちろん作者の身辺も。自分の人生に置きかえた地図。

いつの間にか湯ざめしている自分に気づく共感できるうまい一句と思う。

一つ走りすれば乗れさう春の雲　小林　みさ

作者の若々しい感性をかう。人間いくつになっても夢を持ちたい。春の雲だからこそ、この一句は生きた。

5頁～6頁　亀松　澄江

淡雪やアフリカ象のレム睡眠　瀬戸優理子

象は自然の中では眠らずに移動する日もある位眠りが少ないらしいが、何であれレム睡眠の措辞がとてもユニーク。ではノンレム睡眠はあるのかしらと掲句に出会い、疑問が湧く。淡雪の季語が象の眠りに呼応する。

地を掘れば骨ある島の仏桑花　高畠　葉子

南方メレヨン島へ、遺骨収集に何度も行っていた大先輩がいたことを思い出した。

ハイビスカスではなく仏桑花の選択に、亡くなった方達を弔う真摯な姿が垣間見える。

菰を着て銅像の子はまだ弾む　小路　裕子

生き足りないそして遊び足りない子供の様子が下五に集約され、菰を着せられることさえも不自由と思える作者の情感に感銘した句。

7頁～8頁　齋藤　雅美

一木如来坐して千年緑夜かな　辻脇　系一

平安末期に彫られた一木造の如来坐像だろう。如来は衆生の救済のため現れた仏とされ、戦乱、天災、疫病など様々な災厄に対し、千年のあいだ人々はひたすら救いを求め続けてきた。コロナ禍の今も変わらない人々の祈りが夜の闇に匂う新緑に託されている。

瓦礫には瓦礫の雀隠れかな　永野　照子

近年は地震や水害など大きな災害が多く発生し、そのたびに町や村は瓦礫と化してきた。しかし、春になると草木の葉が伸びるように人々は再生へと立ち上がり歩き出す。雀隠れの季語が復興に向かう人々の小さな力の積み重ねを暗示しているように思う。

太陽からこぼれて来たる寒雀　平尾　知子

寒い冬でも雀は活発に動く。空から飛んできた雀を「太陽からこぼれて来たる」と捉えた詩的飛躍が鮮烈。暖かい太陽の遠景と元気な寒雀の近景との取り合わせが効いて、未来を感じさせる明るい句となっている。

9頁～11頁　田湯　岬

点Aは孤独降らない雪を待つ　村上　海斗

点Aは図形上に打たれた一点か。当然点Bも点Cも存在するだろう。雪はそれぞれを結ぶ線であり、孤独から救ってくれる唯一の希望である。だがこの点には雪は降らない。降るはずのない雪を待っているのだ。この点Aは作者自身のことなのだろう。

沙羅の花生涯続く処方箋　山村公弥子

沙羅の花が今年も咲いている。毎年繰り返される美しい景だ。そして自分は生涯医師の処方箋により投薬を受け続けるのである。せめて沙羅の花のように散りたいものだと。

限りなく嵩む蝋涙敗戦忌　山本　頼

太平洋戦争で亡くなられた日本人は三百万人にも及ぶ。その一人一人に人生があり物語があった。残された人々も同じである。哀悼の意と共に、その蝋涙は限りないのである。

第21回　中北海道現代俳句賞　作品募集

応募要領

1　**応募作品**　30句（必ず題名をつける）
　未発表・既発表を問わず30句　ただし既発表句は2020年１月以降の発表作品に限ります　過去の応募作品の再応募は不可といたします（会員以外の方も応募できます）

2　**募集期限**　2020年12月15日消印まで

3　**募集地域**　石狩・空知・後志振興局管内にお住まいの方

4　**応募用紙**　指定の用紙を使用　会員には会報89・90号に同封・会員以外の方は顕賞係へ返信用封筒に切手貼付のうえ指定の用紙を請求して下さい　〒・住所・氏名明記　協会HPからダウンロードも可

5　**応募方法**　応募料3000円（定額小替為、または現金書留にて）

6　**顕　　彰**　2021年４月４日の中北海道現代俳句大会

7　**作品送付**　〒069－0237　空知郡南幌町栄町1－1－12　武田方
　中北海道現代俳句協会　組織活動部　瀬戸優理子　宛

選　　者　五十嵐秀彦・横山いさを・鈴木きみえ・永野照子・渡辺のり子
　石川美智子・松王かをり

問合せ先　顕彰係　瀬戸優理子　TEL 090-2810-8015

◆事務局だより

新型コロナの影響で自粛の日々が続き、春・夏・秋の季節を楽しむ間もなく冬に入ったような気がします。各大会も中止となり残念な年でした。そのなかで紙上ではありますが、事業部の中北海道現代俳句大会と組織活動部の俳句研究交流句会が実施され、裏方として例年と変わらぬ楽しさを味わわせて頂きました。大会作品集・賞品の発送、研究交流句会の選評付作品集作成など、例年にない試みも実施され、関係各位の尽力に感謝致します。本年事業で残すのは中北海道現代俳句賞のみです。未だ応募可能な時期と思います。皆様のご応募を期待いたします。

（ふじもりよしと）

編集後記

各種行事が中止となったまま年の瀬を迎えようとしています。ひとの往来が七割方回復した秋になっても句会に出ることを躊躇われる方はまだ多く、いわゆる「普通」というものはまだ遠くにあるのだと実感します。そんな中、組織活動部の俳句研究交流句会は紙上で、青のフロント句会も事前投句を併用しつつ八・十月共に無事開催できました。俳句はいつでも、一人でもできるものですが、やはり句会あってのもの。句評しあうことで相互に得られるものの大きさに、改めて思いいたします。年がかわりましたら「一人一句集」の投句も始まります。気持ちを切り替えて、また新しい自分の俳句を詠んでまいりましょう。

（江草）

十月、病気療養中だった室谷安早子さんが永眠されました。室谷さんには長きにわたり、青年部及び青のフロント句会のお世話をしていただきました。心よりの感謝とお悔やみを申し上げます。　（青山酔鳴）

昨年の細谷源二創刊の「氷原帯」が終刊となったことはとても残念でしたが、寺田京子の全句集が刊行されたことは嬉しい限りです。共に地共の巨星。御二人の名が忘れられぬよう何か方法は無いものが。

凧きのふの空のありどころ　蕪村

コロナに席巻された一年でもありました。明日の澄んだ大空を、大人の責任で作り続けたいものですね。

（江草）

令和３年度 総会及び新年会

- 日時 令和３年２月６日(土)14時
- 会場 ポールスター札幌
- 会費 4,500円(予定)

令和３年度 北海道現代俳句大会

- 日時 令和３年６月13日（日）
- 会場 とかち館(帯広)

会員動向

〈入　会〉
- 島崎　寛永
- 和佐　尚子
- 小川　桂
- 栗山　麻衣

〈退　会〉
- 小山田　伸道
- 室谷　安早子(逝去)

会員数　117名
（R2年10月30日現在）

会費納入のお願い

振込手数料は会員各位にご負担頂いております。宜しくお願いします。
口座番号　02780－9－48961
中北海道現代俳句協会

発行人　五十嵐　秀彦
発行所　中北海道現代俳句協会
〒064-0952　TEL 011-641-1007
札幌市中央区宮の森2条8丁目1-18
ふじもりよしと方
編集人　江草　一美
〒003-0838　TEL 011-874-3049
札幌市白石区北郷8条3丁目
6-36-703
青山　酔鳴
〒061-1354　TEL 090-3398-3457
恵庭市島松旭町4丁目9-1　早川方